

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI東川口教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しめる雰囲気作り。	・職員間で話し合いイベントの考案等を行っている。 ・指導員からのお子様に対しての関わり方を日々話し合いお子様が過ごしやすい雰囲気作りを行っている。	・イベント内容の引き出しを他教室や他事業所の情報を集め増やしていく
2	風通しの良い教室であること。	・定期的に親子イベントを開催している。 ・丁寧なフィードバック。	日々の療育後のミーティングにてお子様の情報をより詳しく共有し、全職員が利用者とその家族の状況について理解しておくよう徹底する。
3	立地(2路線、駅徒歩5分)。	・定期的に周知活動を行っている。 ・交通量の多い交差点の角地である建物前に立て看板を置いている。	事業所間で連携をとって、利用者により適した施設を紹介し合う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	メニューの固定化。	他教室や他事業所で行っているプログラム内容を知る機会が自発的に行動しない限りあまりない。	指導員が利用者の課題やニーズに合わせて、それぞれ新しいメニューについて日々調べるなど学習意欲をもって業務に取り組む。
2	支援計画書の内容が支援に反映されていないことがある。	メニューが固定化していて、面談内容や日々の療育プログラムに反映できていない。	利用者とその家族のニーズや面談で話したこと、個別支援計画の内容を全職員で共有する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI東川口教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 36

回収数 : 22

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	2			玄関が狭いので少し窮屈に感じる。	靴を履く場所を広げ込み合わないよう に配慮をする。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になって いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思 いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思 いますか。	22					
適 切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	19	3			親が感じていたこと以外にも気になる特 性に気づいてくれた。	今後もお子様の特性を職員間で共有し、 児童理解に努めていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	20	2				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	21			1		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具 体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	1		2		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	20	2				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	8	4	5	5		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	22					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレー ニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	20	1		1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	22					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1			アドバイスをくれるので安心。	児発管とも密にコミュニケーションを図 り、面談でお伝えすることや助言でき ることの共有を図る。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	4	1	1	妹も参加できており良かった。強制的に 参加ではないのが嬉しい。	引き続き月ごとでイベントを開催する等 兄弟の参加も促しながら支援にあたっ ていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20			2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	3		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2			実際に起こった場合、保護者への連絡はどうかを知りたい。	災害時のマニュアルを掲示する等保護所へ視覚的にみえるようにしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20			2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	1			信頼できる。楽しそうに通っている。	楽しい雰囲気を作りお子様の楽しいを尊重していく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	1			楽しそうに通ってくれて嬉しい。楽しいと言っているので安心。	お子様の楽しめるプログラム等を職員で話ながら、ブラッシュアップしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI東川口教室	公表日	2026年 2月 28日
------	-------------	-----	--------------

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	4		他教室から人員を補っている
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		入り口に段差あり
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		体制作りが必要
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1		毎回内容が同じで新しい学びがない
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		プログラム内容が固定化している
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2		プログラムの固定化がある

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	2		固定化している
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		地域との連携の機会がない	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3		現時点で保護者同士の交流の機会が設けられていないが、必要に応じて検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI東川口教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取り組み等	さらに充実を図るための取組等
1	立地(2路線、駅徒歩5分)。	・定期的に周知活動を行っている。 ・交通量の多い交差点の角地である建物前に立て看板を置いている。	事業所間で連携をとって、利用者により適した施設を紹介し合う。
2	風通しの良い教室であること。	・定期的に親子イベントを開催している。 ・丁寧なフィードバック。	日々の療育後のミーティングにてお子様の情報をより詳しく共有し、全職員が利用者とその家族の状況について理解しておくよう徹底する。
3	清潔な教室環境。	毎日の清掃の徹底。	壁面に季節の飾りを行っているが、子どもにとって余計な視覚的な刺激にならないようバランスを考慮する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	メニューの固定化。	他教室や他事業所で行っているプログラム内容を知る機会が自発的に行動しない限りあまりない。	指導員が利用者の課題やニーズに合わせて、それぞれ新しいメニューについて日々調べるなど学習意欲をもって業務に取り組む。
2	支援計画書の内容が支援に反映されていないことがある。	メニューが固定化していて、面談内容や日々の療育プログラムに反映できていない。	利用者とその家族のニーズや面談で話したこと、個別支援計画の内容を全職員で共有する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI東川口教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 49

回収数 : 24

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	2		1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23	1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24				・清潔で過ごしやすい環境だと思う。 ・季節ごとの掲示を見るととても楽しい雰囲気だと伝わってくる。 ・片付いていると思う。	今後も清掃を徹底し、心地よく過ごせる環境整備を心がけていく。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	2				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22	1		1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1		3		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	1		1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23			1	いろいろなメニューを考えてくださっていると感ずる。	さらにメニューのレパートリーを増やし、飽きない工夫をしていく。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2	1	14	7	交流の機会がなくても特に問題はない。	交流を求める意見はあまり聞かない。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	2	1	4	定期的にあると思う。	親子イベントを定期的に開催しており、今後も行っていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができてきていると思いますか。	22	2			その日の運動内容については毎回しっかりとフィードバックされている。	丁寧なフィードバックを心がけている。今後も心がけていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1		1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	2				
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	1	2	5	・色々なイベントが開催されていて家族で楽しんでいる。 ・親子イベントのことだとしたら、定期的に設けられていると思う。 ・父母の会等は参加したことがない。兄弟がいないので兄弟への支援については分からない。	定期的に行っている親子イベントで保護者同士の交流が見られる。保護者会は行ってないが、支援内容や課題が多岐にわたるため、内容は工夫する必要がある。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	1	5		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	1		毎回個別にフィードバックして下さるので、何かあれば伝えやすい。	丁寧なフィードバックを心がけている。今後も心がけていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	1	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23	1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21	2	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	1	1	しっかりされていると思う。	避難訓練は、適切な訓練が出来るよう毎回職員で話し合っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	2	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	1	2	・怪我や活動中以外の傷も気を配って頂いている。 ・今のところ怪我なく過ごせている。	必ず情報を共有し、保護者に伝えている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	24			TAKUMIでは安心してチャレンジできるようで、苦手な運動も楽しみになった。	多くの児童が表情よく通えている様子。入り渋りや行き渋りのある子どもは、保護者とも連絡を密にし、対応や方向性について話し合っている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	2	1	・スタンプカードを喜んでやっていた。 ・いつも楽しく通わせていただき、子どもは毎週金曜を楽しみに待っている。先生方も優しくありがたく思っている。 ・学校の後なので疲れのせいか拒否発言があるが、教室では楽しそうにしている。	保護者の方から、お子様がTAKUMIを楽しみに通っているという意見をいただくことが多い。今後も楽しみに通っていたけよう、暖かい雰囲気作りを心がけていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	24			・子どものこと、兄弟のこと、そして親に対してたくさん支援していただき感謝している。 ・これからもよろしく願います。 ・いつもありがとうございます。	メニューが固定化しがちなのと、支援計画の内容をプログラムに反映しきれていないので、今後力を入れていきたい。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名						公表日	2026年 2月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	1	4		他教室から人員を補っている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		入り口に段差あり	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		体制作りが必要	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1		毎回内容が同じで新しい学びがない	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		プログラム内容が固定化している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2		プログラムの固定化がある	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	2		固定化している
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	2	子どもや保護者を通じての情報を得ている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1		体制が整っていない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2		事例がない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		連携が薄い
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		機会がない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2		人員不足で参加ができない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3		現時点で保護者同士の交流の機会が設けられていないが、今後必要に応じて検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				